

論文審査結果

わが国においては多文化共生をめぐるさまざまな問題が提起されているが、本論文は、多文化共生保育の現状と課題、およびそこにおける外国籍保育士の果たす役割という先行研究の少ない領域について、先行研究およびドイツの先行事例・群馬県大泉町のフィールド調査を踏まえて論じたものである。

多文化共生はグローバル化の進む現代社会、少子高齢化の進捗する日本社会において避けて通れない現実的問題であり、その意味で時宜を得た研究テーマであると言えよう。

内容的には以下のように評価されよう。

- ① 研究テーマに即した文研検討・調査研究から多角的に検討されている。
- ② 多文化共生が常に直面する同化・統合問題としての「日本人化」保育に着目している。
- ③ 外国人・日本人という二項対立的視点でない、外国籍保育士に焦点を当て、媒介者を含むその役割を検討している。
- ④ 群馬県大泉町という外国人居住者比率が 16% と高い地域に焦点が当てられている。
- ⑤ 多文化共生研究の一層の向上に資する内容が多く含まれている。

一方、以下のような点が更なる検討課題として口頭試問を含めて指摘されている。

- ① 論述の一貫性に弱い点が見かけられる。
- ② アメリカの歴史事例、ドイツの共生保育事例における背景理解がやや不十分である。
- ③ 本人も述べている通り、外国籍保育士事例が少ないため、普遍性確保のためには事例の拡充が必要である。
- ④ 図表等において、一部に慎重な考察が必要とされるものが存在している。

佐々木由美子学位請求論文審査委員会では平成 29 年 12 月 4 日開催の口頭試問後に全体会議を行い、一部に今後の更なる考察の深化は望まれるものの、学位請求論文『外国籍児の育ちを保障する多文化共生保育—当事者としての外国籍保育士の役割を手がかりとして—』は、上述のような評価すべき点を有しており、本研究科の定める「学位請求論文の評価基準」に照らして、博士（社会福祉学）として十分な内容であるとの判断で一致したものである。

以上